

病防第33号  
平成22年6月23日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

早期水稲地帯における斑点米カメムシ類の発生状況(技術情報第4号)について(送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

1 斑点米カメムシ類の発生状況

(1) 2010年6月に上天草市松島町ですくい取り調査(植生:イタリアンライグラス及びイネ科雑草)を行なった。

その結果、5種類の斑点米カメムシ(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、シラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ)が確認された。

(2) クモヘリカメムシの10回振り捕獲成虫数は、3週平均5.6頭(平年6.3頭)と平年並であったが、その他4種カメムシは、平年より少なかった。

2 防除対策

(1) クモヘリカメムシでは穂揃い期の密度が1~2頭/100m<sup>2</sup>を超えると斑点米率が0.1%以上となるなど、斑点米カメムシ類の加害は低密度でも品質に影響を与えるので、出穂期から成虫の発生に注意する。

(2) 防除適期は、穂揃い期とその7~10日後(乳熟期)の2回である。

(3) 斑点米の産出能力はクモヘリカメムシやミナミアオカメムシ等の大型のカメムシ類が高い。

(4) カメムシ類は広範囲に移動するため、広域で一斉防除を行うと効果が高い。

(5) 水稲出穂後における周辺雑草の除草は、本田への飛来を助長するため行わない。

(6) 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守し、ミツバチを含め周辺環境等へ飛散のないよう注意する。特に養蜂家へ事前に防除時期等の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

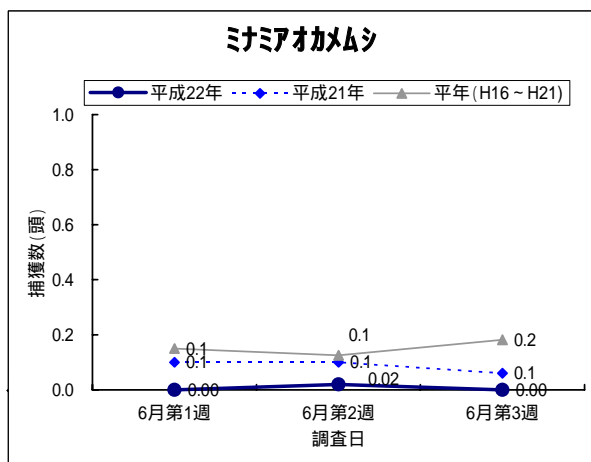
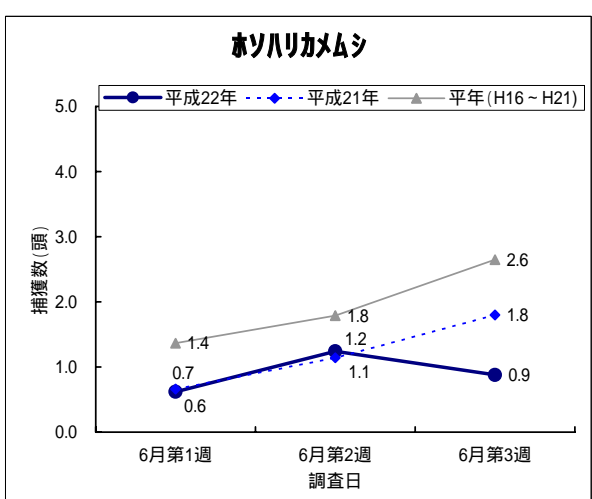
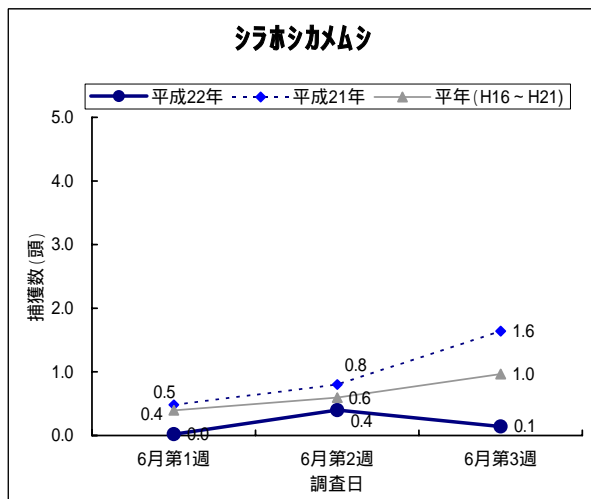
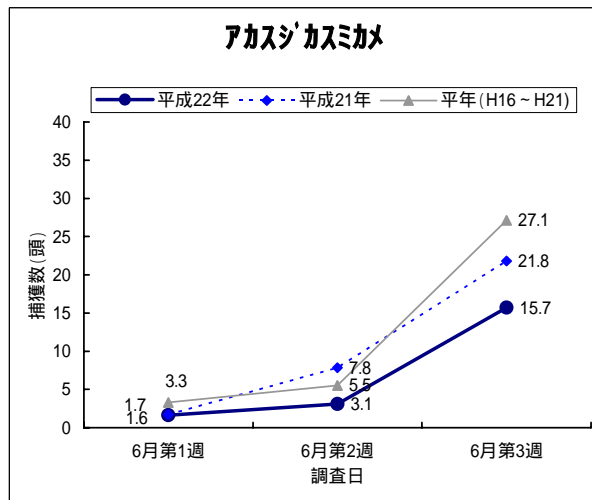
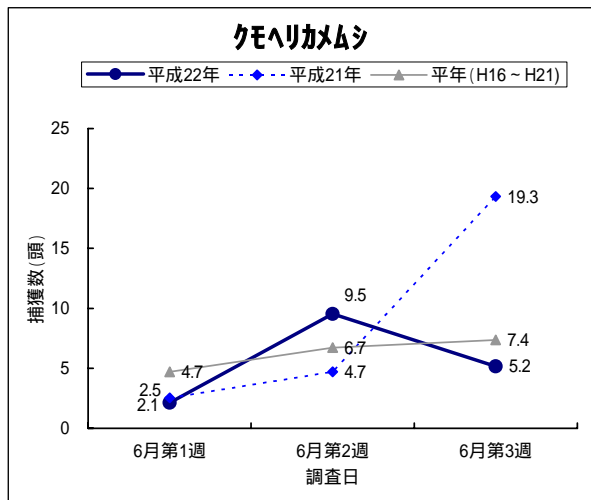
熊本県農業研究センター生産環境研究所  
病害虫研究室予察指導係(病害虫防除所)

担当: 山口、東

TEL 096-248-6490

FAX 096-248-6493

別紙



**図 すくい取り調査でのカメムシ類成虫捕獲数**  
 調査場所: 上天草市  
 調査対象: イタリアンライグラスおよびイネ科雑草  
 調査方法: 10回振り平均